

「道路政策の質の向上に資する技術研究開発」（平成 29 年度採択）

中間評価結果（公表用／ハード分野）

番号	研究名	研究代表者	評 価
29-9	リモートセンシング技術を活用した道路土構造物の維持管理の効率化に関する研究開発	東京大学 教授 古関 潤一	B
<p><研究の概要></p> <p>リモートセンシング技術(合成開口レーダー[SAR])を活用し、広域の道路土構造物の変状(軟弱地盤・スレーキング材料による長期沈下、アンカーのり面・深礎杭の変状、管理外の土石流・地すべりなど)について、過去に遡ってデータベースを作成することにより、劣化しつつある道路土構造物の性能・対策優先度を評価し、道路施設の点検・維持作業の効率化を図る。</p> <p><中間評価結果></p> <p>研究は計画通り順調に進んでいるものの、リモートセンシング技術を用いて道路土構造物の維持管理がどのように効率化されるのか、成果のとりまとめの方向性に関わる課題も残されていることから、指摘事項に留意しながら現行の通り推進することが妥当であると評価する。</p> <p><今後の研究計画・方法への指摘事項></p> <ol style="list-style-type: none"> 最終成果としての「マニュアル」について、SAR による計測方法のみを整理するのではなく、SAR の実務への適用条件や適用限界、長所や短所などを明確化するとともに、道路土構造物の維持管理の現状を踏まえ本技術が効果を発揮する適用方法などを整理し、実務において適切な活用がなされるようにするための「マニュアル」としていただきたい。 SAR 導入の初期コスト、運用コストについて、道路土構造物の管理の現状を踏まえ、実務への導入を見据えたものとなるよう、技術活用の方法論とあわせて研究を進めていただきたい。 			

※本中間評価は、新道路技術会議の各委員が評価を行い、第 39 回新道路技術会議において審議したものである。